

『芝地区地域情報誌』は、地域の皆さんとともに創る情報誌です。芝地区の「いい話」を紹介したり、様々な行事や活動の情報を交換したり、地域の皆さんと一緒に地域のことを考えていく場として、地域情報誌を発行しています。



紅葉のころの風景

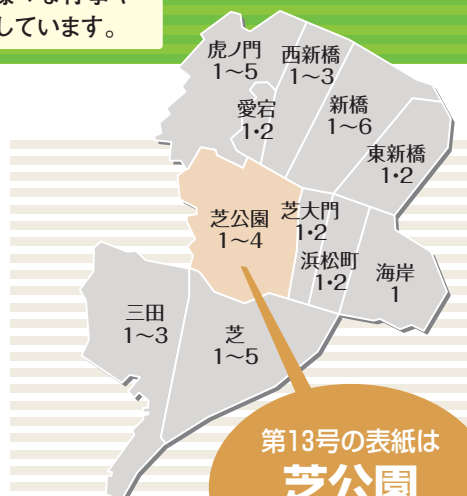
芝公園1～4丁目は、芝地区のほぼ中央に位置し、公園のほか東京タワーや増上寺など著名なスポットがある街です。明治6年（1873）に増上寺や金地院などを含めた地域が、東京で最初の公園の一つに認定されたため、公園名がそのまま町名になったと言われています。芝公園はその名の通り、緑豊かな都会のオアシスです。

芝公園『もみじ谷』

秋風に揺れる金色のカーテン…

都会に残る自然のオアシス

写真は、東京タワーに隣接した都立芝公園の『もみじ谷』です。もみじ谷には、谷の地形とともに滝や小川、木々などの自然が残されており、「本当にここは現代の都心なのだろうか」とタイムスリップした感覚になります。季節は秋真っ盛り、夏の青々とした木々の緑が黄金に色づき、秋風に揺れる金色のカーテンといった雰囲気です。秋の爽やかな季節を味わいに、散歩に出かけてみませんか。

都立芝公園
芝公園1～4丁目第13号の表紙は
芝公園
エリアの話題
です

増上寺にまつわる“門”を巡る

明徳4年（1393）西譽聖聰上人が江戸貝塚（現千代田区紀尾井町）に創建したと伝わる増上寺は、徳川家康公の入府による江戸城拡張とともに、慶長3年（1598）に現在の地に移転しました。浄土宗の大本山であり、また徳川家の菩提寺として知られ、6人の将軍が埋葬されています。一部を残し昭和20年（1945）の戦災で多くの建造物を焼失しましたが、昭和46年（1971）から本格的な復旧が始まり、昭和49年（1974）に大殿が再建されました。

日比谷通りを歩くと焼失を免れたいくつかの門に出会えます。増上寺の正面にそびえ立つ三解脱門（三門）は国の重要文化財に指定されています。これをくぐると三つの煩惱（むさぼり・いかり・おろかさ）を解脱できるという現在の三門は、元和8年（1622）に建てられたと伝えられ、大造営された当時の姿を残しています。上層内部には、都有形文化財の、釈迦三尊像と十六羅漢像が当時のまま安置されています。

また増上寺山内の南端には、修理が完了し往時の姿が復元された、旧台徳院霊廟惣門があります。2代将軍徳川秀忠の墓所で、芝の徳川家霊廟の中で最も規模が大きなものでしたが、霊廟は戦災で焼失し、今は惣門だけが残っ



三解脱門（三門）



御成門

ています。左右には18世紀前半までに制作されたと推測される阿吽の仁王像が安置されています。

往時の面影を残すこれらの門のほかに、東京プリンスホテルの駐車場の片隅にも二つの門があります。8代将軍徳川吉宗が建立した有章院（7代将軍徳川家継の院号）霊廟二天門は、右に多聞天、左に広目天を配し、門の内側に残る朱や金箔等にかつての豪華さを残しています。もう一つは地名にもなっている御成門です。増上寺の裏門として将軍の参詣の際に使われたもので、当初は御成門交差点の位置にありました。明治25年（1892）、新政府による道路整備計画である東京市区改正計画で、内幸町から芝園橋に至る道路が新設された時に、現在の場所に移されたものです。晩秋、色もあせ時の流れに身を任すように立つこれらの門に無常を感じました。

増上寺の境内から三門を出て、汐留の超高層ビルの間から差し込んでくる朝日を見ました。変わるものと変わらないもの、古い木造建築と超近代的な高層ビルが混在するこの街に今生きている私たちは、どのような“文化遺産”を次代に残せるのか。200年、300年後にこの時代はどのように評価されるのか、ふと考えさせられました。

〔文・写真 ■ 岩崎 秀頭〕

増上寺
芝公園4-7-35港区
楽しむ
アート

7

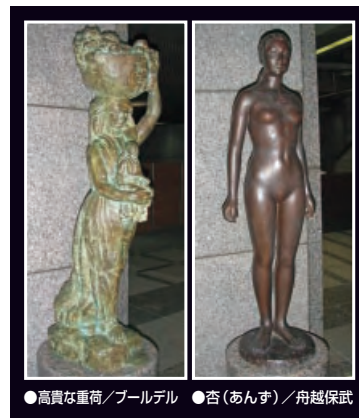
港区議会議会棟の入り口に
二つの女性像

港区役所の南隣りに港区議会議会棟があります。区役所と違ってその中に入ることがない…という人も多いのではないのでしょうか。その入り口近くに、2体のブロンズ像がひっそり立っています。一つはアントワーン・ブールデル作「高貴な重荷」。もう一つは舟越保武作「杏（あんず）」です。

「高貴な重荷」の作者ブールデル（1861-1929）は南フランス生まれ。ある日、頭に大きな荷物を乗せ右手に赤ちゃんを抱えたひとりの身重の女性を見かけ、彼女の姿の気高さに胸打たれて制作にかかったということです。

頭上の籠には、さまざまな果物が見え、籠全体の大きさは少なくとも彼女の頭の2倍はありそうです。彼女の表情が、心持ち苦しそうに見えるのは私だけでしょうか。127cmの像から、生きることの重みを全身でしっかり受け止め、前に進む女性の力強さが伝わってきます。

もう一つの「杏（あんず）」と名づけられた女性像は、胸を張って、スラリとまっすぐ立っています。髪の毛は束ねられ、動きのあるものは取り除かれているように見えます。120cmのその姿は清潔感にあふれ、可憐でありながら、怖いものは何もないという若さや純粹さというオーラを発散しているように思いました。観る人の心の状態や年齢によって、いろいろなことを語りか



●高貴な重荷／ブールデル ●杏（あんず）／舟越保武

けてくれる作品ではないでしょうか。

「杏」の作者の舟越保武（1912-2002）は岩手県生まれ。戦後カトリックに帰依し、キリスト教的な作品も多く手がけました。その一つ「長崎26殉教者記念像」は、第5回高村光太郎賞を受賞しました。東京芸術大学や多摩美術大学で後進の指導にもあたった人物です。

女性の強さ、美しさを切り取って見せてくれる2つの像。区役所へ行くことがあったら、隣のビルをちょっとのぞいてみるのも面白いでしょう。

〔文・写真 ■ 伊藤 泰子〕

港区議会議会棟
芝公園1-5-25

●月～金 8時30分～17時15分（土・日・祝日休）



生姜の風味漂う 和菓子の伝統

芝神明 榮太楼・4代目店主
内田 吉彦 さん



4代目店主の内田吉彦さん



榮太楼の外観

お茶請けに和菓子をいただくとか和んできます。季節感や花鳥風月を彩りと形に具現化した日本人の美意識を表している和菓子は、冠婚葬祭や年中行事、家族の記念日には欠かせない一品です。

芝神明神社参道前に店を構える「芝神明 榮太楼」4代目店主の内田吉彦さんは、代々伝わる和菓子と自らの創作和菓子をすべて手作りで提供しています。

「決して手を抜いてはいけなと、先代から受け継ぎましたので常に念頭にしています。人が作るものなので商品の出来具合に波があるのはやむを得ないことですが、できるだけ波の幅を小さくすることが大切なんです。千個作った和菓子でも、買う人にとっては1分の1であるというのを忘れないことがスタンスですね」

仕事に対する厳しさを内に秘めながらも和菓子のように甘く穏やかな人柄は、昔からのお客さんとお付き合いを大切にしつつ、新しいお客さんを増やしていることから、うかがい知ることができます。

江戸の頃より「だたら祭り」で有名な9月の芝



丹精込めて作られた和菓子

大神宮例大祭では生姜を売る店が並び、別名「生姜祭り」とか「生姜市」とも呼ばれています。この辺り一帯は昔生姜畑だったことから由縁でしょう。内田さんはこの地の名産を広く知ってもらいたい、後世に伝えたいという思いから、求肥に金時生姜と白胡麻を練り込み和三盆で味付けした「生姜」を創作されました。ほかに沖縄県宮古列島の多良間島で採れるサトウキビを練り込んだ「黒糖」、季節の果

物を練り込んだ「季節の香り」の3種をそれぞれ小さな籠に入れた、かわいらしくも粋な一口大のもち菓子を考案されました。完成するまで5年がかりだったそうで、長年の努力と熱い思いも練り込まれています。

そのほか、初代創業者の長吉氏と地元の縁で親交があった明治の文豪、尾崎紅葉に名づけてもらった最中など、商品はすべて全国から吟味した高級素材を使い、素材本来の本物の味を出しています。

「和菓子は昔から日本人の心であり文化です。これを責任をもって守っていき、伝統を繋いでいくのが私の使命です」と語る内田さんの心意気が、和菓子を一層味わい深くしています。

〔文■千葉 みな子〕



芝神明 榮太楼
芝大門1-4-14
TEL 03-3431-2211

●9時～19時(土曜14時まで)
●日曜／祝日定休(8月のみ土曜定休)

【芝歴史探訪】

芝公園の こんちいん 金地院について

金地院住職・
第27世徳蔵浩道和尚



金地院を訪ねて

皇居の南西に位置する金地院は、武蔵野台地の東端(飯倉台地)にあり、東には伊豆・小笠原諸島の玄関口・竹芝桟橋が開けており、古くは縄文・弥生時代の遺跡や、当時は海が迫っていたという丸山古墳もあり、今でもじっと目を閉じると、海の香りと波の音が聞こえてくるようです。

明治になって今の金地院の向かいに「東京芝紅葉館」という会員制料亭ができ、戦後そこに東京タワーが建設されましたが、もとは金地院の境内だったそうです。「紅葉館」の由来も、江

戸城から移植された紅葉にちなんでつけられたそうで、今でも東京タワーのすぐ下に美しい「もみじ谷」として整備されています。

坂下の東京タワー前交番側にはメタセコイアの林が30mの枝を広げて、その先に芝学園、正則高校が見えます。また左隣には機械振興会館、聖オルバン教会、聖アンデレ教会が並び、その向かいには2棟のメソニックビルと東京タワーの足もとが見えます。さらに裏に廻ると芝給水所公園、オランダ大使館があります。

金地院の由来を

現在の金地院住職 第27世徳蔵和尚さんにたずねると、徳川家康が京都の南禅寺の塔頭(たとう)金地院の崇伝を駿府(静岡)から江戸城内に移し、江戸金地院の開基となり、その後20年

して現在地に転地したそうです。家康は足利幕府の制にならって崇伝を僧録司(禅寺を統轄し、人事をつかさどった僧職)として任命し、寺社奉行の設置以前の宗教政策を担当させました。崇伝は、外交文書の作成、伴天連(宣教師)追放文(これが鎖国への起点となりました)、朝廷幕府間の斡旋、寺院・公卿・武家諸法度立案など、幕府立法の基礎作りに参画したそうです。

さて、このような金地院の墓域に眠る先人たちの中に、江戸時代の和算家會田安明(1747～1817)、通称・算左衛門、号・自在亭がいます。彼は山形に生まれ関流の和算家と20年以上もの間、著書での論争をしたほどの学者で、著書は数学関係600冊、他合計2000冊に及び、特に晩年の「算法天生法指南」は代数学の名著として広く読まれ、多くの弟子に尊敬されました。法名も「数学院無量自在居士」となるとびつたり。思うに現在の日本にとって重要な「科学技術の開発」の一番大切な要素は、會田安明の精神にあるキュリオシティ(好奇心)の飽くなき追求であったことを痛感させられます。

東京日本語センターの 開設の成果が今、開花

「昭和37年(1962)4月、当院本堂地下に『東京日本語センター』が開設されました。現在のように各地に日本語学校が林立している状況とは違い、当時としてはまさに草創期的な存在でした。寺子屋のように境内の一隅を教場とし

て提供できたのは、戦時中自らフィリピンで日本語教員として従事した経験を持つ、先代の第26世住職敬嚴和尚の深い理解によるものでした。以来約半世紀、一ことばは心と心の通じ合いの理念のもと、世界各国の幾多の学生たちが当院の境内という環境に育まれ、日本語と日本文化を学んできました。当院としても国際交流にささやかながら貢献することができたといえましよう」と和尚さんは語られました。

国際化が進む中で、このように「交流の基礎」をなし、日本のことばや文化を他の国々の人々に知ってもらうことの大切さを痛感します。ここで学んだ人たちが母国に帰って、次々と花々を咲かせていることを考えるとなんとすばらしいことでしょ。

今朝も隣の上寺の屋根のしゃちほこが立ち昇る陽の光に輝き、東京タワーも赤く燃えています。金地院が、そして日本が新しい文化の発信地でありつづけますように…。

〔文■柴崎 賢一／写真■佐藤 剛志〕

プロフィール

現在の金地院住職
第27世徳蔵浩道和尚(姓松浦)

昭和32年当院に生まれ、45年得度出家。私立芝学園、早稲田大学第一文学部日本史学専攻卒、京都南禅寺専門道場での修行を経て61年金地院住職拝命(27世)。(財)全日本仏教会議議員、東京都仏教連合会理事、芝仏教会常任理事、港区立麻布小学校評議員。

※和尚さんは、人を惹きつける魅力を持った
黒髪なお人柄でした。



金地院
芝公園3-5-4
TEL 03-3431-1026



オーストラリア大使館 The Australian Embassy

観光・文化・産業・貿易… わが国との緊密な関係を 知りました。

1988年に建国200年を迎えたオーストラリアは、世界中から移民を受け入れてきた多様性に富んだ国です。実に、オーストラリア人の4人に1人が、外国の生まれということです。異文化に対する理解と寛容が自然に備わり、人々は習慣や宗教の違いを超えて、社会を上手に機能させています。政府も移民政策に力を入れ、英語の話せない人々に無料レッスンを提供するなどしています。こうした社会が、オーストラリア人の優しい国民性にも繋がっているようです。今回は、大使館参事官(広報・文化担当)ナンシー・ゴードン氏と、同じく広報担当・本田紀子氏に大変興味深いお話を伺うことができました。インタビューはモダンで近未来的な大使館の一室で行われました。

「オーストラリア」というとイギリス連邦の一員のため、どうしても白人の英語社会というイメージが先行します。しかし、今回お話を伺い、こうした先入観は一扫されました。太平洋にある大陸として、環太平洋・アジアの一員という認識を持つオーストラリア人が多いそうです。と



モダンな建物の大使館には、事務棟、大使公邸、館員官舎が入っています

りわけ、日本は観光地としても人気が高く、日本語を習う人々も年々増えてきているそうです。オーストラリアは比較的低い山が多いので、良質の雪を求めてニセコや白馬にスキーに来るオーストラリア人観光客も多く、一方、日本からの旅行先としても人気があります。驚いたことに、日本と姉妹都市関係を結んでいるオーストラリアの都市は100を超え、両国の交流は深まるばかりです。



オーストラリア大使館
三田2-1-14
TEL 03-5232-4111(代)



■多くの卒業生たち

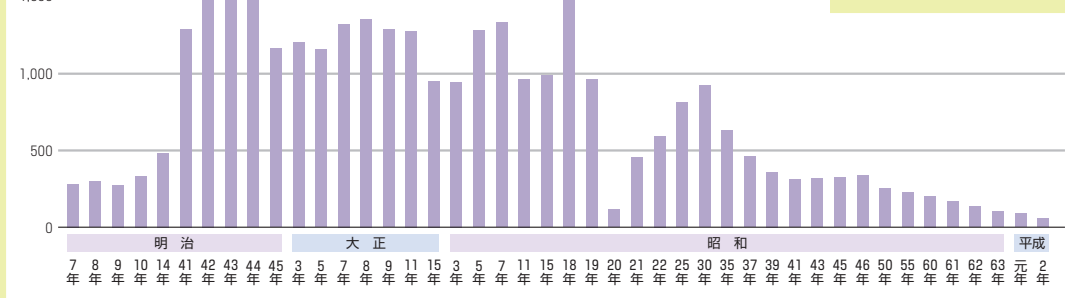
開校から120年の間、鞘絵小学校は多くの卒業生を送り出しました。当日集まった卒業生の年齢は幅広く、昭和5年度卒の栗原ゆきさんは91歳、6年度卒櫻井清さん、10年度卒の張替富江さんも元気に出席しました。27年度卒元フジテレビアナウンサーの露木茂さんは「沼津臨海学校へはお米持参で行きました。28年度卒の柁井さんは「どうしても鞘絵小で学びたいと越境しました」。32年度卒グループは、「3年間担任が変わらなかったでまとまりがよく、今も集まっています」ということです。

■思い出の品

昭和46年に埋めたタイムカプセルの発掘を待っていたのは伊波惠一さん、中田成徳さん、杉本等さんたち。カプセルは見つからず、カプセルの担当だった伊

思い出の詰まったピンを開封

左から櫻井清さん、栗原ゆきさん、張替富江さん



〔「鞘絵 開校百二十周年記念誌」より〕

■鞘絵小学校の歴史

鞘絵小学校は明治3年(1870)に仮小学校第一校として、源流院(増上寺の子院)という寺院があった場所に開校しました。山本陽一さん(28年度卒)がまとめた『鞘絵小学校の歴史』には、同時期に開校した6校と現在の学校名が載っています。第二校は市ヶ谷、第三校は

遠足の行き先

	明治40年以前	昭和46年頃
1年生	山王様の日枝神社	祐ファミリーパーク
2年生	目黒不動尊	こどもの国
3年生	品川(の)海晏寺	多摩川の京王百花園
4年生	新宿の十二社	高尾山
5年生	雑司が谷の鬼子母神	三浦半島観音崎
6年生	上野の動物園	箱根二コニコ高原学園

〔「鞘絵 世紀をこえて 開校百一周年 記念誌」より〕

大使館訪問



ナンシー・ゴードン氏(広報・文化担当)

本田紀子氏(広報担当)

マーシャル博士の功績は日本人の胃の健康に大きく貢献したと言えます。

このように日本とオーストラリアの関係は想像以上に深く、互いに必要不可欠なことが分かります。日本駐在2年で日本語堪能なゴードンさんは、日本の四季の移り変わりが素晴らしいとおっしゃっていました。彼女はよく日本各地を旅行されるそうです。今では「東京に戻り、東京タワーが見えてくるとホッとする」と茶目っ気たっぷりに話してくださいました。

大使館の広大な敷地には緑がたくさん溢れ、ここが都心の一角であることを忘れてしまいそうです。

シドニーやゴールドコーストのみならず、首都キャンベラなど魅力に尽きないオーストラリア大陸、今すぐにも出かけたくなりました。



駐日オーストラリア大使
マレー・マクレーン氏
のご紹介

2004年11月下旬から駐日大使を務めているマクレーン氏は、官民問わず活発に交流されています。中国標準語(北京語)に堪能で、アジア問題を中心に幅広い経験をお持ちです。趣味は、ゴルフ、テニス、クラシック音楽、アジア美術と多岐に及びます。1991年に国際関係における功績を称えられ、オーストラリア勲章を受賞されています。

★大使館で教えてもらったオーストラリア料理のレシピを次号でご紹介します。お楽しみに♪

〔文■小知和 千佳子〕

秋は「文化・芸術の秋」ともいわれます。衣食住の文化へのかかわりはもちろんのこと、読書や音楽、そして演劇など心を豊かにしてくれる芸術活動にも積極的にかかわりたい季節です。本誌でも芝地区にある文化・芸術のスポットをご紹介しますとともに、そしてその伝承者でもある“人”をクローズアップします。

目の前で俳優が語りかけてくれる…そこには生身の感動がある 観客の人生をも動かす芸術…それが演劇



INTERVIEW 劇団四季 取締役広報宣伝担当
よしだ ちよき
吉田智誉樹さんに聞く

日本でミュージカルを定着させるのに大きな役割を果たしている劇団四季は、年間3,500ステージを超える上演回数、俳優・スタッフ1,000名以上を有する日本最大規模の劇団です。

創立は昭和28年(1953)7月14日。海外のミュージカル作品を上演するだけでなく、オリジナルミュージカルも上演して人気を集めています。

また、全国に9箇所ある専用劇場のうち、港区には4つの劇場が集まっています。演劇を深く市民社会に根付かせるために、演劇界に新たな潮流を生みだし続ける劇団四季。その原動力、そして魅力についてお聞きしました。

●芸術というジャンルの中で、演劇はどのような特徴のある芸術と言えますか？

文学や絵画、彫刻などとは異なり、演劇は形になって残るものではありません。その時代

の観客と「劇場」という場で直接向き合い、時間と空間を共有する芸術です。そこにはライブならではの迫力があります。それが演劇の大きな特徴なのではないかと思います。

また、舞台美術や音楽、俳優、演出家など、色々な才能がお互いに刺激しあいながら創っていく芸術でもあります。数多くの人々の力が集まり、そこから生まれるエネルギーが膨大だからこそ、観客に与える感動のインパクトも大きいのです。

●演目はどのような基準で選んでいるのでしょうか？

演目を選ぶ基準のひとつは、「人生を生きる感動」を描いている作品かどうかということです。人生には生きる価値があるんだという、人生に対してポジティブな作品を選んでいきます。同じ作家の作品でも、生きることの喜びを観客に与えられる作品のみを選びます。話は面白くても、単に愉快なだけであるものや、ネガティブな作品は選びません。登場人物の人生を共有することで「カタルシス(※注1)」を味わえ、「明日も頑張ろう」と思わせてくれるような作品を提供していきたいと考えています。

外国の作品を輸入しているケースでは、日本人のお客様に理解しやすいものであるかどうかということも重要です。たとえば、内容的には素晴らしいけど、民族間の差別の問題というテーマが、日本人には馴染まないため、選ばなかったものもあります。

●舞台俳優をどのように育成し、キャストイングしているのですか？

毎年、約千人が劇団四季の入団試験を受けています。その中で合格するのは30～40人。それとは別に、劇団で勉強する資格が与えられる研究生が40人ほどいます。研究生は、一年間無料で充実した施設とシステムの中で、歌、ダンス、発声方法などの勉強をすることができます。ただし、成長がみられなければ、その一年で劇団を去ることになります。

基本原理は常に「競争」です。努力を怠る人は収入も減ります。劇団には毎年70～80人が入りますが、同じボリュームで減っていく非常に厳しい世界です。

劇団四季では、あらかじめキャストを公表していません。俳優のコンディションや能力に応じてフレキシブルな配役ができる体制になっています。考え方の基本にあるのは「相手に勝てるチームづくり」をするプロ野球チームと同じでしょうか。その時の最高のキャストで、作品をお客様にご覧いただく。「スター」ありきの舞台ではなく、常に作品がどうあるべきかを考え、そこに必要なキャストが出演するのです。そうすれば一人の人間のスケジュールやコンディションに左右されることなく、常に同じ水準の舞台が提供できます。一人のスターに頼ってしまうと、「ライオンキング」を11年間連続上演するといった長期公演は、まず不可能でしょう。「実力主義」は厳しいものですが、一方でどんなに無名でも、舞台俳優としての能力を持ち、努力し続けることができる人には、常にチャンスが与えられているとも言えます。

●舞台芸術において、今と昔とで大きく変わった点がありますか？

根本的なものは変わらないと思います。お客様がいて、演者がいて、感動を与える作品がある。その三角関係はギリシア悲劇の時代と同じです。

もちろん、新しい演出手法など、表現は時代によって変化しています。たとえば『ライオンキング』では、東洋と西洋の表現の融合がなされ、マスクやパペット(※注2)で動物を表現するという新しい手法がとられています。このようなテクニックの進歩こそありますが、それはあくまでもテクニックで、台本に書かれた感動が、俳優の



ライオンキング 撮影：上原タカシ©Disney



アイダ 撮影：下坂敦俊©Disney

体を通して正しく伝えられ、そこに人の心が動かされるという基本的な形は変わっていません。演劇の感動には心の中に深く残り、その人の人生を変える力があるのです。目の前で、生身の俳優が自分に語りかけてくれる、というアナログな感動こそが、演劇という芸術が何世紀にもわたって受け継がれている理由なのでしょう。

●数多くある劇団の中でも「劇団四季らしさ」とは何でしょうか？

創立以来56年間、感動を与えられる作品を正確に上演すれば、数多くのお客様にご来場いただけるという信念のもとに活動してきました。文学的にすぐれた「作品」こそ、人に感動を与えることのできるものであるという「作品主義」が、劇団四季らしさです。

台本に書かれた言葉を重んじ、文学の中にある感動をダイレクトに観客に伝える方法論を確立していることも大きな特徴といえます。その方法を地道に実践することで、作品自体のクオリティを保ち続けることができるのです。

これから「四季らしさ」を大切にすることにより、より多くの人の心に感動を与え続けていきたいと思っています。

※注1 カタルシス…文学作品などの鑑賞において、そこに展開される世界への感情移入が行われることで、日常生活の中で抑圧されていた感情が解放され、快感がもたらされること。浄化。
※注2 パペット…操り人形の一つ
※注3 ストレートプレイ…台詞によって進行する劇

info

i

●JR東日本アートセンター 四季劇場[春]・[秋]
浜松町の劇団四季専用の2劇場。[春]は海外大型ミュージカルのロングランを、[秋]は四季オリジナルミュージカルからストレートプレイ(※注3)、海外名作ミュージカルなど様々を上演。
・海岸1-10-48(浜松町駅北口より徒歩約7分)

●JR東日本アートセンター 自由劇場
四季劇場に隣接する、小規模の劇団四季専用劇場。主にストレートプレイを上演。“正統な新劇”を継承する運動を継続するための基点となるべく、劇団創立50周年を記念して建てられた。
・海岸1-10-53(浜松町駅北口より徒歩7分)

●電通四季劇場[海]
新しい街「汐留シオサイト」の中核をなす劇場。電通本社ビル「カレッタ汐留」の文化施設の中に位置する。
・東新橋1-8-2(新橋駅より徒歩約6分)

*いずれも問い合わせ先 TEL 03-5776-6730 (劇団四季東京公演本部)



細部まで神経の行き届いた存在感
和綴じ本は使えば使うほど
愛着がわく“自分ノート”

株式会社 大野製本所
「和本工房」主宰

おおの ゆうじ
大野勇治さん

大野さんは、現在日本では少なくなつた和綴じ本を作っている方です。家業を継いで製本業をしていましたが、日本に昔からある和綴じの製本様式に興味を持ち、古書店に通うなどして独学を続けているうちに和綴じの継承、普及に携わる伝統工芸士になられました。

【もともとは中国から伝わった製本技術】
和綴じはもとも中国から日本に伝わったもので、室町時代には紙を半分に折って作る袋綴じの方法が行われるようになりました。和綴じの様式で最も一般的なのは、四つの綴じ穴に糸を通して綴じていく「四目綴じ」です。ほかには、綴じ上がりの糸の形状が亀の甲羅に似ている「亀甲(きっこう)綴じ」、また麻の葉に似ている「麻の葉綴じ」などがあります。これらと綴じ本は、制作工程に非常に時間と手間がかかる工芸品であり、現代

の雑誌のように大量生産には向いていませんがさまざまな和紙や生地を使うことができ、綴じ方の手法も数々あるほか、使い方も自由です。そのためお客様の個性が表れます。書家の方は書を綴じて作品集に、卒論を綴じる学生の方、また外国の観光客向けのお土産として欲しいという依頼もあります。

【制作過程のムダに見える時間を通して納得のいく仕上がりを目指す】
作り方は「①折る、②プレスする(紙が落ち着くまで1～2週間必要)、③中とじ(重ねた紙の上から目打ちで垂直に穴をあけ仮とじする)、④端を整えて補強の生地をはる、⑤表紙をかける、⑥とじる」ですが、このプロセスにはかなりの時間と準備時間がかかります。1冊にかかる時間は大きさや厚さにより異なります。紙の反応を見ながらの作業なので、紙の音が聞こえてくるような、まるで紙と会話をしているかのような作業が続きます。まず、作業を始めるにあたり自分の手に合った道具が必要になります。紙を折るヘラは自分の手に合った、またさまざまな素材に合

わせたヘラを数種類準備します。和紙や生地は糊の種類と調合の割合で変わりますので、本番の前に小さいものでテストします。穴を垂直にあけていくには熟練の技が必要です。しかし、これらのプロセスにかかる時間と労力はすべて必然だと大野さんは言います。とくく合理的にやっていくのが現在の正当なら、これらはムダの時間という名をつけられるのかもしれませんが、ですが、このムダを通らないことは納得のいく良い和綴じ本は完成しないのです。本当に満足のいくものは1年に1冊か2冊できるくらいで、まだまだ技術を追求しています。

【使い方はいろいろ…長い間使える丈夫さがあります】
話の後、大野さんが実際に和綴じ本を見せてくださいました。確かな技術と細やかな感性に裏打ちされた和綴じ本は細部まで神経の行き届いた存在感のあるものでした。たくさん見せていただきましたが、仕上がりは歌舞伎をイメージしたもの、「かまわぬ」や「うずまき」などの日本の記号、その他いろいろあり目移りしてしまいます。

表紙に使う和紙は、大野さんが浅草や鎌

info

i

大野製本所
芝2-18-11
TEL 03-3451-0158

【文】小林 真紀子

江戸の食文化

細く長く今に続く、 粋なファーストフード

秋、新蕎麦の美味しい季節である。江戸時代に大ブームとなって以来、現在まで連綿と続く日本人の誰もが好きな伝統食。蕎麦は初め「もり」で食べていたが、元禄(1688～1704)になって蕎麦の上につゆをかける「ぶっかけ」が登場すると、せっかちで気の短い江戸っ子は手軽に早く食べられ腹のたしになると、たちまち江戸の名物になった。冬になると冷たいつゆでは体が冷えるので、温めてかけるようになり、こちらは「かけ」といって区別した。

最盛期には店舗だけで3,763軒もあり、1町内に2～3軒あったことになる。それに天秤棒を担いで町中を歩いて売る、夜鷹蕎麦や風鈴蕎麦を加えると大変な数であった。

蕎麦湯もこの頃は飲まれていた。蕎麦を茹でるとビタミンB1やルチンなどの栄養素が流れてしまうので、それを補うことを知っていた昔の人の知恵である。蕎麦は当初蕎麦粉100パーセントで打った生蕎麦だったが、享保(1716～1736)の初め頃、蕎麦粉8割に小麦粉2割を配合した「二八蕎麦」が登場すると多くの店がこちらに切り替えた。二八蕎麦とはその配合からいわれるという説と、2と8を掛けて16文の値段のことともいわれている。江戸庶民の生活が豊かになってきて主に白米を食べるようになり、その結果ビタミンB1不足による「江戸癪い」という脚気が広まり社会問題になるが、これを補ったのが蕎麦だった。ちなみに5代將軍徳川綱吉も脚気に悩まされたとか。

文化・文政期(1804年～)になると天ぷら、鴨南蛮、花巻など種物のメニューが多く出てくる。

参考文献：「江戸蕎麦通への道」(藤村和夫 著／NHK出版)

江戸3大蕎麦老舗 更科布屋を訪ねて

「更科布屋」七代目 金子栄一さん

更科布屋の代名詞とも言われる「御前更科蕎麦」。特別に上質の白いはそば粉で作られています

現在、江戸からの伝統を受け継ぐ江戸3大蕎麦といわれるのが更科、数、砂場である。その中で芝大門の老舗「更科布屋」の7代目当主、金子栄一さんに取材のご協力をいただいた。創業は寛政3年(1791)、創業者の布屋萬吉氏は信州更級郡(今の千曲市)で反物商をしていた。萬吉氏の蕎麦打ち名人の噂は領主保科家江戸屋敷にも届いていて、ある時江戸に反物を納めに来ると蕎麦屋をやってみないかと持ちかけられた。江戸ではどの蕎麦屋も繁盛していたので、自分の腕が活かされると決心して薬研堀に「布屋萬吉」を開業した。その後はいち早く「変わりそば」を手がけ、現在も家伝の名物になっている。

明治20年代に店は数寄屋橋に移っていて、当時の主人が「度餉(おんど)った蕎麦粉をも1度細かい篩で篩ってみたところ真っ白な粉になり、それを木鉢に入れ熱湯で捏ねて「白髪蕎麦」として出すとたちまち評判になり店の名物になった。」番粉を使った蕎麦は白く上品で口当たりが良くほのかな甘みが何とも旨い。これが白い更科蕎麦の始まりと言われている。

蕎麦と切っても切れないつゆは、各店の味といえる。お互いがバランス良くマッチしてこそ旨い蕎麦となる。更科布屋のつゆは蕎麦の味や香りのじゃまにならないよう、穏やかでまろやかな、濃厚な甘口が特徴。「生まれたときから体に染みこんだつゆの味は、一子相伝で30年間毎日私が作っています」と金子さん。老舗の蕎麦屋の主人たちはみなこのように店伝来の味を受け継ぎ、次へと伝えている。

「伝統とは時代や客の好みを見極め、その都度革新していかなければなりません。ただ、先代から言われたことは、「更科蕎麦を作り続ける・つゆの味を変えない・常に客の傍にいなさい・季節感を大事にする」ことです」と言う。これを守ることが江戸から愛され続けてきた江戸蕎麦の命なのでしょう。それを木鉢に入れ熱湯で捏ねて「白髪蕎麦」を一杯、それからざるを味わい蕎麦湯で仕上げるのでしょうか。

【文】千葉 みな子

7代目当主の金子栄一さんと東京高名蕎麦屋連行。同席付は明治17年刊で、もちろん更科布屋のお名前が出ています

更科布屋の外観

更科布屋
芝大門1-15-8
TEL 03-3436-3647
●11時～21時 ●日曜定休

4 芝地区地域情報誌 平成21年11月20日 第13号

区役所のサービスや施設・催しの案内は **みなとコール** がお答え します! TEL 03-5472-3710 年中無休 午前7時～午後11時

芝地区地域情報誌 平成21年11月20日 第13号 5

芝地区地域情報誌 平成21年11月20日 第13号 7

1 初開催に潜入!! 三陸・大船渡 東京タワーさんまつり

9月27日(日)、東京タワー・正面玄関前にて、岩手県大船渡市の協力のもとで、三陸海岸大船渡港で水揚げされた新鮮なさんまをその場で炭火焼きし、なんと3,333匹が無料で振る舞われるイベントがありました。まつりのキーワードは『大船渡市』が三陸(さんりく)海岸にあり、さんまの産地(さんち)直送便の先駆地であり、『東京タワー』が昭和33年開業、高さ333mという『さんつながり』の縁もあって実現されたそうです。

そこで、休日ではありますが少し早起きをして『三陸・大船渡 東京タワーさんまつり』に潜入してみました!

オープニングセレモニー開始前の午前9時30分頃に到着したものの、ざっと400名以上の人たちが、既に長蛇の列を作っていました。先頭には、前日の夜9時から待っていたという方もいて、会場はまつりスタート前から、すでに盛り上がりを見せていました。そんな状況に因應のかのように、主催者側から振る舞いのさんまの数を5,000匹に増やしますというアナウンスが入ると、会場からいっせいに拍手がわき上がり、ますますおまつり気分になってきました。

列に並びながら、お隣の女性グループにお話を伺うと、今日は品川から訪れたそうで、別のさんまつりに行くことができなかったのでインターネットでこの東京タワーさんまつりを知り、遊びに来たとのことでした。そんなさんまの人気ぶりを再確認し、待つこと約2時間。炭火焼きの何ともいえない香ばしい煙に包まれながら、ようやく順番がやってきました。今日の主役、さんまの炭火焼きを頂きました! お皿にのった大きめのさんまには、大分県佐伯市産の力ボスまで添えられていて、見た目も美しいです。食するために場所を移動すると、皆さんも美味しそうに食べています。

こんなに多くの人と一緒に同じ味覚を楽しんでいる光景も、なかなか良いものです。あつあつのさんまは脂がのついて、しつこさや臭みはなく、思ったよりも上品な味わいで、とても美味しかったです。

東京タワーのそびえ立つ爽やかな秋空の下で、新鮮なさんまを味わいながら、また芝地区のどこかの楽しいスポットに潜入して、皆さんにお伝えすることを心に誓うのでした!



東京タワー
芝公園4-2-8
TEL 03-3433-5111

2 港区街路第4号線(JR交差部)が完成! 汐留地区の東西を結ぶ道路が開通

去る10月14日(水)、汐留地区のウインズ汐留ビル近くのJR線の下をくぐる約80メートルの道路(トンネル)が開通しました。地元地権者で組織された「汐留地区街づくり連合協議会」と、東京都との協働で進められてきた汐留地区の区画整理事業で整備されたものです。

これまでは東西を結ぶ道路はイタリア公園前的一方通行道路しかなく、橋桁が低いために大型車両の通り抜けができませんでした。開通した港区街路第4号線は車両ばかりでなく、汐留地区の在住・在勤者の通行にも役立つ道路として期待されています。トンネル内の照明には発光ダイオードを用い、防犯にも配慮されています。地域の方に末永く愛される道路になることを願っています。



集合場所となった桜田公園の様子



歩行者へ啓発品の配布や、路上の清掃を行いました

3 やめよう! 歩行喫煙 キャンペーン

芝地区では、生活安全・環境美化活動推進協議会の活動の一環として、「やめよう! 歩行喫煙キャンペーン」を町会・自治会、地域企業などの皆様とともに実施しています。

このキャンペーンは啓発活動・清掃活動を行うことによってマナー向上を訴え、歩行喫煙・路上喫煙をなくすことを目的としており、芝地区の主要駅周辺において年間10回行っています。

去る9月15日(火)午前8時30分から新橋・内幸町駅周辺において実施されたキャンペーンでは、地域の環境美化活動の意識の高まりや企業の社会貢献活動の高まりなどから、過去最高の302名の方にご参加をいただきました。

港区を清潔できれいな、安全に過ごせる街にするための取り組みに、これからもより多くの方が関心を持ち、参加してくださることを期待しています。

※各回とも午前8時30分から

- 平成22年1月19日(火)〔1月26日(火)〕 虎ノ門駅〜神谷町駅周辺
- 平成22年2月16日(火)〔2月23日(火)〕 赤羽橋駅〜芝公園駅周辺
- 平成22年3月16日(火)〔3月24日(水)〕 新橋駅・内幸町駅周辺

今後の予定
()内は雨天候補日

都税についてのお知らせ

省エネ(熱損失防止)改修をした 住宅にかかる固定資産税が減額されます

主税局イメージキャラクター
タックス・タクちゃん



●減額の対象となる住宅

平成20年1月1日以前からある住宅で平成20年4月1日から平成22年3月31日までの間に、人の居住の用に供する部分において、一定の要件を満たす省エネ(熱損失防止)改修工事を行った住宅(賃貸部分は、減額の対象にはなりません)。

●減額の年度と額

改修工事完了年の翌年度分に限り、住宅1戸あたり120㎡の床面積相当分までの固定資産税額の3分の1が減額されます。

減額を受けるためには、改修工事完了後3ヶ月以内に、申告が必要です。詳しくは、当該住宅が所在する区にある都税事務所へお問い合わせください。なお、23区外で省エネ改修をした場合には、当該住宅が所在する市町村へお問い合わせください。

平成22年1月に 港都税事務所が移転します

現在の庁舎での業務は12月28日(月)で終了し、1月4日(月)から新庁舎で業務を開始します。

12月28日まで

〒108-8380
港区芝5-36-5
TEL 03-3453-3211(代)

平成22年 1月4日から

〒106-8560
港区麻布台3-5-6
TEL 03-5549-3800(代)

アクセス

- ・地下鉄比谷線「神谷町駅」2番出口から徒歩10分
- ・地下鉄南北線「六本木一丁目駅」2番出口から徒歩9分
- ・地下鉄大江戸線・地下鉄南北線「麻布十番駅」6番出口から徒歩11分
- ・都営バス渋88系統(渋谷駅〜新橋駅)「麻布台停留所」から徒歩1分

※駐車場が少ないので、なるべく公共の交通機関をご利用ください。

「みなとコール」は 暮らしの疑問にお答えします!



区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽にお問い合わせください。 年中無休/午前7時〜午後11時

TEL 03-5472-3710
FAX 03-5777-8752

Eメール: info@minato.call-center.jp

英語での
対応も
いたします。

警視庁犯罪被害者ホットライン

被害者や家族の相談窓口です。
迷わずに勇気を出して
相談してください

TEL 03-3597-7830
FAX 03-3592-6840

匿名でも
OK

秘密厳守

お気軽に



愛宕警察署

芝地区地域情報誌・編集委員を 募集しています!



芝地区の話題を
発掘し、取材していただく
地域情報誌・編集委員(記者)
を募集します

【対象】芝地区管内に在住、在勤、在学で取材に携わりたい人

【内容】地域の話の収集、取材、写真撮影、原稿作成など(年間4回発行予定)1回の取材などで平日の昼夜間に2時間程度、発行予定ごとに平日夜間、1回編集会議への参加があります。

【申し込み】氏名、住所(在勤、在学の方は所在地)、連絡先、在住・在勤・在学の区別を明記の上、下記の芝地区総合支所協働推進課まで、FAXまたは郵送で申し込みください。

【その他】報酬等の支払いはありません。

★本誌の制作には以下の編集委員が参加しています。
伊藤泰子/岩崎秀樹/大澤佳枝/桑原庸嘉子/小知和千佳子/小林真紀子/佐藤剛志/柴崎賢一/千葉みな子/張簡光輝/森明
★今後の発行スケジュールは次の通りです。
H22.2.20発行(第14号)、H22.5.20発行(第15号)、
H22.8.20発行(第16号)、H22.11.20発行(第17号)

芝地区地域情報誌の配布について

芝地区総合支所【芝、海岸1丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田1〜3丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕】内の地域の方にお届けしているほか、地区内各施設にて配布しています。

港区芝地区総合支所協働推進課

所在地: 〒105-8511 東京都港区芝公園1丁目5番25号(港区役所2階)
TEL: 03-3578-3192 FAX: 03-3578-3180
ホームページ: <http://www.city.minato.tokyo.jp/sisyo/siba/>